

発言No.

受付No. 9

令和3年2月15日

10時06分 受付

一般質問発言通告書

議席番号 13 番

氏名 布施 賢司

答弁を求める者

市長

教育長

監査委員

選挙管理委員会委員長

(○をつける)

農業委員会会長

固定資産評価審査委員会委員長

公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 「はまだお魚市場」について

- ① 浜田漁港周辺エリアの活性化は浜田市全体の活性化につながり、その活性化の中心的な役割を持つ、旧：しまねお魚センターを改装した山陰浜田港公設市場、名称「はまだお魚市場」の仲買棟がいよいよ3月21日にオープンします。「はまだお魚市場」の指定管理者である第一ビルサービスは江津市の温泉施設「風の国」の指定管理者でもあり、ペルソナ分析で特に広島からの若い世代の誘客に効果を出されています。「はまだお魚市場」のコンセプトもペルソナ分析をした上で「ここにしかないとびきりいいもの」という一つのテーマを掲げて運営に当たるとしてはいますが、このコンセプトに期待するところを市長に、ご所見をお伺いします。
- ② 交流人口客の利用はもちろんですが、その施設を支えるのは浜田市民です。まずは、市民に継続的に来て利用してもらうことが第一です。そのためには、指定管理者の努力はもちろんですが、施設周辺エリアに家族で行きたくなるような、ゾーン構築が必要不可欠だと思います、どんなゾーンを考えているのか、実現可能なものを含めてお伺いします。

2 木育について

- ① 木のぬくもりに触れる体験は、単に木材への知識を深めるだけでなく、豊かなところや感性をはぐくむきっかけになると、近年では保育分野での木育は大きく広まっております。先日、弥栄中学校の生徒が杵束保育園の園児に木のぬくもりを感じてもらおうと、積み木100個送ったと新聞記事がありました。その活動に感心すると同時に一つの疑問がわきました。浜田市の子どもたちや大人たちは、魚の種類（イカ・アジ・ノドグロ等）は言えても、特に広葉樹（ブナ・ナラ・クリ等）の種類は言えるのでしょうか？おもちゃや木工製品の材質を説明書で見て分かるのではなく、小さい時から樹木の葉っぱを見て、板材の色や木目を比較し、匂いを感じ、種類を見分けられる木育も大事だと思います。そこまで取り組みをされているのでしょうか？海と山に囲まれた浜田市だからこそできる教育として、海洋教育と併せて取り組むべきだと思いますが、教育長にご所見をお伺いします。

3 線路はなくても未来に続く「広浜鉄道今福線」について

- ① 令和2年度の施政方針で市長は「広浜鉄道今福線」は浜田市の宝だとして利活用と地域活性化を取組むとしてきましたが、コロナ禍でそれもままならず、また、昨年行われる予定だった全国未成線サミットも延期となり、令和3年11月の開催予定となりました。沿線住民が大事に環境整備をしてきたこの今福線、これまでの利活用や地域の活性化に、どこまで取り組まれて「浜田のお宝」になっているのでしょうか、お伺いします。
- ② サミットでは全国から関係者や鉄道ファンが来浜されます。特に鉄道ファンは熱烈な人たちが多く全国に情報発信してもらえ絶好の機会だと期待していますが、今福線は線路もトロッコ列車もありません。遺構跡だけで迎えるのでしょうか。何とかインパクトのある未成線サミットにしなければなりません。そこでこれまでなかったシンボルマークの作成、2年に1回開催される全国サミットで持ち回りができるフラッグの作成、第3回目の開催都市として作成提案することを打ち出し、前夜祭やセレモニーで、日本遺産でもある神楽を従来とは違う圧巻の演出にしたり、さらに浜田市民や旧国鉄、JRの人に呼びかけ「はまだ版・鉄道グッズお宝大会」等を企画して市民参加型の大会にしてはと思いますが、ご所見をお伺いします。

4 センスの良い商品について

- ① 東部の道の駅やお土産店を利用すると、センスの良いお土産品に出会う機会が多い。「センスの良いお土産品」とは、目を引くパッケージデザインやユニークなネーミング、食べるのに丁度いい量、これらの要素を満たしているものと私は考えます。最近、松江のお土産品をいただきました。その方になぜ、この商品を購入したのかを聞いてみると、前項で言ったことに加えて「お友達にお土産をあげる時はセンスが良いものを送りたいから」とのことでした。これらを踏まえ、既にあるお土産品をそのまま売るのではなく「センスの良い商品」にブラッシュアップすることを行政から企業に提案するのはいかがでしょうか？ご所見をお伺いします。